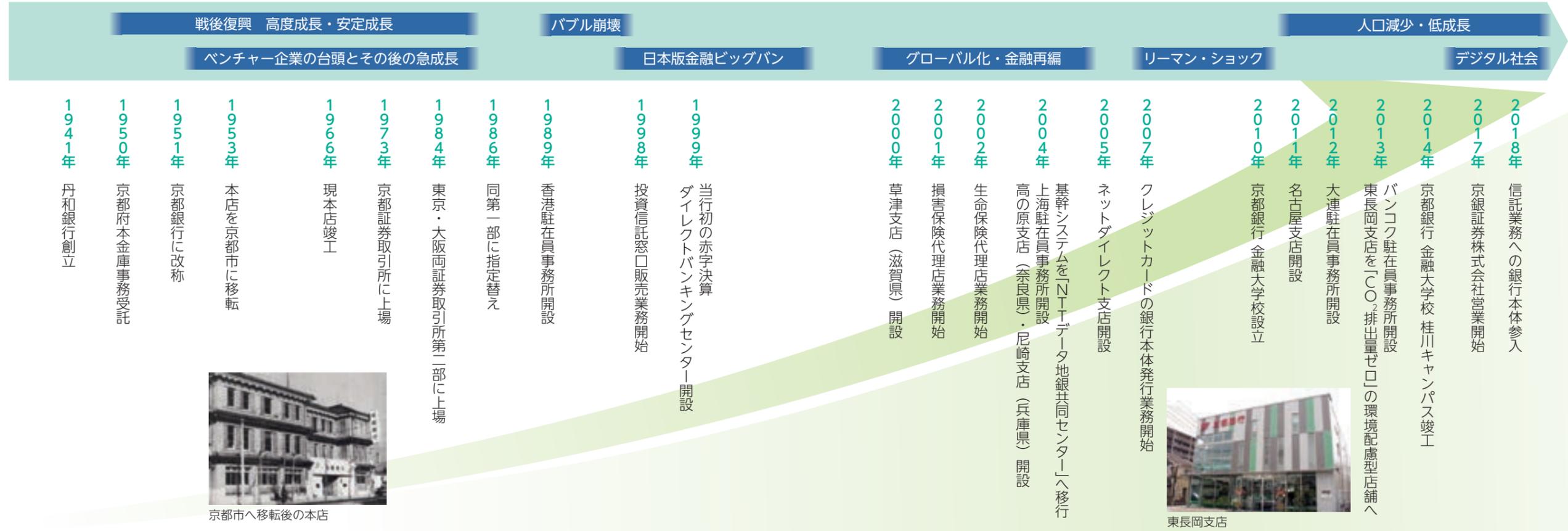


京都銀行の歩み

京都銀行は、1941年（昭和16年）に京都府北部にあった丹和銀行、宮津銀行、丹後商工銀行、丹後産業銀行の4行が合併し「丹和銀行」（本店：福知山市）として誕生、その後、1951年に「京都銀行」と改称、1953年に本店を京都市

に移転いたしました。創立以来、一貫して「地域社会の繁栄に奉仕する」を経営理念に掲げ、地域のお客さまとともに歩んでまいりました。



京都市へ移転後の本店



東長岡支店

01 「地元本店銀行」としての地位確立

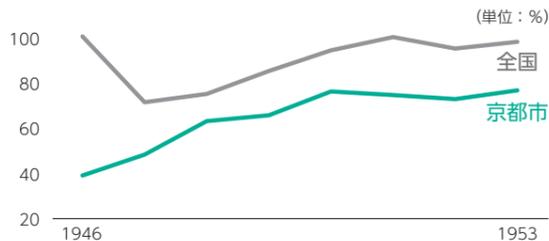
戦後復興期、京都市の金融事情は、銀行預貸率(※)が全国平均を大幅に下回っているように、非常に逼迫しており、中小企業は深刻な資金難に陥っていました。そのため、中小企業金融の円滑化とそれを担う地元本店銀行の登場を望む声が高まり、京都市各界などからの要請に応じる形で、当行が本店を京都府北部の福知山市から京都市へ移すこととなりました。

こうした背景から当行は、京都市内をはじめ京都府全域の中小企業を金融面から支援し、地元本店銀行としての地位を固めてまいりました。

また、この時期、京都には後に大きく成長するベンチャー企業が次々と登場し、当行はこれらの企業にも、融資や出資などの金融面から意欲的にサポートをおこないました。こうした企業の数々は当行の重要な顧客基盤となるとともに、出資し保有を続けてきた株式は良質な資産となり、後の広域化戦略を支える財務基盤となりました。



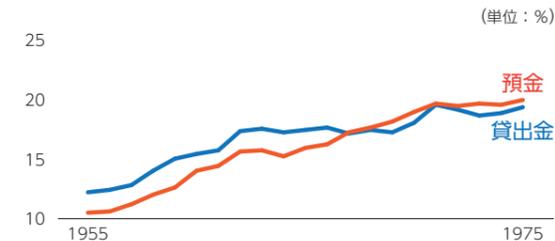
銀行預貸率(※)推移 (全国・京都市)



(日本銀行「日本金融史資料」より京都銀行作成)

(※) 銀行の集めた預金がどれだけ融資に回っているかを示す指標。(貸出金÷預金×100)

当行の京都府内シェアの推移



(各種資料より京都銀行作成)

02 「広域型地方銀行」としての成長

バブル崩壊後、銀行業界で大手行の再編が進み、地域金融機関の再編も各地でおこりました。当行は強固な財務基盤を背景に不良債権処理にいち早く区切りをつけ、2000年の草津支店開設による滋賀県への進出以降、奈良県、兵庫県へも進出し、既に進出していた大阪府を含めた広域エリアに店舗網を拡充させる広域化戦略を推進しました。また、この戦略を支える人的資本の充実のため、企業内学校として金融大学校を設置するとともに、先進的な機能を有した新研修施設「金融大学校 桂川キャンパス」を設置するなど、人材育成に注力いたしました。こうした成長戦略の結果、量的拡大を順調に続け、収益向上と経営基盤の強化を図ることができました。

金融大学校 桂川キャンパス



【預金・譲渡性預金】



【貸出金】



【店舗数】



【従業員数】

